

新生匠瑳戦略会議（第1回商店街復権部会） 会議録（概要版）

開催日時：平成24年8月27日（月）

午後7時00分～9時20分

開催場所：匠瑳市役所議会棟第3委員会室

出席委員：（学識経験者）渡辺新

（団体推薦者）越川八代枝、鈴木和彦

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子

（5人／名簿順）

欠席委員：なし

市出席者：（事務局/企画課）小川課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

2 あいさつ（大塚部会長）

（省略）

3 議 事

（1）「まち（中央商店街）の香りは地域のちから!!」について

- ・先日、市内で活動している4人の方に合わせて、話を聞いてきた。NPOと農業が実はつながっていたり、植木の分野でバイオマスの研究が行われていたり、実はいろいろと活動が行われていることがわかった。
- ・中間報告はあくまで地域づくりの道具で、市民協働などは匠瑳市ではあまり慣れていない。大切なことではあるが、それだけで地域づくりを行うことは難しい。よって、聞き取り調査を行ったわけであるが、その結果、まちづくりの大きな見取り図ができてきた。
- ・かつて旧野栄町では「野菜いきいき農業塾」という組織を作った。その成果の一つがチューリップ祭りで、その他にも当時の生産農家が集まって地ビールの工場をつくろうとしたなど、いろいろ動きがあった。組織化は難しいが、それらの活動を今一度掘り起こして、緩やかに提携することでまちづくりに活かさないだろうか。
- ・昨年11月に行われた商店街復権会議を振り返ってみると、これだけ世の中が変化し

ているわけなので、商店街や商工会の活動も変化すべきではないかと感じた。また、時代は新しくなっていくが、古い文化や伝統を絡ませたまちづくりもあるのではないかと思う。

- ・商店街復権会議では、自分から積極的に参加して商店街を盛り上げようという雰囲気よりも、「行政側が何かしてくれるのか」という参加者の受身のオーラを強く感じてしまった。
- ・大型店が進出する際に、何らかの対策を立てるべきだったと思う。大型店が進出しているところでも、活性化している商店街はある。スーパーで買うものは大体決まっているので、スーパーにないもの、あるいは手作りでそこにしかないものを充実させるなど、アピールの方法はいろいろあると思う。
- ・これからの高齢化社会を考えると、まさに高齢者をターゲットにしたお店が商店街にあって、そこに欲しいものがあれば、わざわざ市外へは行かずにお客は来ると思う。商店街に魅力を感じる場所は、街中を歩いていると、わざわざ声をかけてくれるお店があるところで、それが対面販売の魅力だと思う。
- ・家の近所のおじさんが大型店にトウモロコシを卸していて、生産者であるそのおじさんが、お店で直接お客に売っているのを見かけた。愛想のいいおじさんなので、そのトウモロコシが飛ぶように売れていた。
- ・市役所へ向かう旧道沿いに加瀬金物店というお店がある。無農薬栽培をしている農家の方は、物がいいので必ずそのお店を利用するとのことで、こういうお店は残していきたいと思う。
- ・個店の最大の問題点は、後継者問題である。後継者は通常一族の人が引き継ぐと考えるが、それだけでは課題を解決することは難しい。支援組織を作ってサポートしていくなど、後継者問題の新しいあり方や取り組みも考えていくべきだと思う。
- ・野栄地区の海岸通りににぎやかさが出てくると、南北の中心であるJ T跡地を交流センターとして位置づけられそうな気がする。すでに北の里山では、天神の森によくNHKがロケにきているし、安久山のスタジイが日経新聞で「訪ねたい神秘的な巨樹」の第8位として取り上げられていた。
- ・行政があまり首を突っ込むと、市民は全て行政がやってくれると思ってしまう。本来は、商店街の店主たちが「自分のまちだから、自分の店だから」という思いで良くしていこうと思わないと、いくらお金を出しても意味がないと思う。
- ・今まで農家というのは生産だけしかしていなかった。しかし、現在ではふれあいパークのように生産者が販売や流通まで事業領域を拡大させている。野栄地区には味噌を作ったりして、農産加工をやっているところがあるので、生産農家とタイアッ

プして加工や流通まで行えば、活路を見出せるのではないかと思う。

- ・ 八日市場を復権するには、住居つき空き店舗を、店主たちが貸してくれるかどうかだと思う。これは当事者同士ではなかなか前に進まない問題なので、第3者に入ってもらった方がいいのではないか。
- ・ 中間報告では、J T跡地について、「他人ごとで考えてしまっている」、「利用方法がなければ売却も一つの手段」という考え方が示された。中間報告で戦略までの議論はされたが、市から投げかけられた課題に対し、今度は戦術をどう展開していくか、そこまで来ているのだと思う。
- ・ 戦略としての中間報告はまだ不十分だと思っている。市や市民が戦略会議に期待していることはそういうことではなく、もっと大きなスケールのまちづくりだと思う。これがないといくら市と市民と一緒にやっても、何に向かってやっていったらいいのかわからなくなってしまう。具体的に考えるときは、中間報告のしくみを使って市民が考えていくべきだが、その原型になる構想は出すべきである。
- ・ 今後を考えていくとき、高齢化と人口減少は避けられない。福島県の旧小高町（現在の南相馬市）では、これまで走らせていた路線バスを廃止して、乗合タクシーに切り替えた。バスに比べてコストもかからず、わざわざ停留所まで行かなくても玄関まで迎えに来てくれるので、住民に非常に喜ばれ、買物をする人も増えているようである。
- ・ 市民協働を行うには、市民が自立しなければできない。市民が施策を提案し、それを行政が支援していくレベルでないと無理だと思う。
- ・ よかっぺ祭りも完全に定着し、匝瑳市の一つの伝統になっている。祭りというものは本来、疫病を祓ったり、五穀豊穰を祈願したりという神事から出発している。そういう伝統の中ににぎやかさが生まれると、行事として継続できるようになる。
- ・ 様々な角度から議論してみると、いろいろな話題が出てくる。それらをうまくつなげて、まとめられたらと思っている。

(2) その他

次回の会議は、9月14日（金）午後6時30分から行う。